

図面工作科や美術科において先生方が感じている危機感や不安困り感は何ですか？

①「地域連携」を行うことが危機感や不安・困り感の打開につながる有効な手立てか

②「地域連携」についていろいろな取り組みの紹介

③「地域連携」について持続可能にしていくためには

Aグループ 【危機感・不安・困り感】 掲示が飾れる場所がたくさんある 描くだけでなくコラージュなど貼るものもやっている （苦手を克服するもの） 地域とのつながりなかなかできていない 校内をまず飾っていく 生活科との連携町たんけんで拾ったもの（葉）を板に 市内図工展 他の学校の実践の参考になる 校内図工展をやっている 掲示の仕方を工夫してみたい ★参考にしながらオリジナルにしていくな難しさ 「猫をかいてみよう！」見たものを真似る？ 参考にしないで。その人を描きたいものをかいているから 盗作でもある。 技術は盗んでも良い。 タブレットなどは時間を決めて見る 個々によってニーズが違う 猫ってどんな耳？全然わからないって子には見せたい 図書館へ 子ども同士をつなぐ声かけ 〇〇してみよう！と決まるまでが教師の仕事 猫が嫌いな子もいる 猫の動きをみて可愛いと思わないとかけない 書き続けるためにはこだわりや意欲がないとできない 鑑賞もセット 人に認めてもらいたい子もいる 子同士 製作途中も黒板に飾ってみる なぜその人はうまいのか 分析をしてみる 取り入れる 次の作品に向かう意欲にもつながる 触った感・爪・毛 触れる 感じたことを描く 練習（小さめの紙で何枚も）→共有→本番（共有のタイミンク） 中学の先生の授業（教材）の決め方 地域）プラモデル（静岡市） ジオラマにして写真	Bグループ 【共通テーマ】危機感・不安 ・教師の意図（表現させたいもの）と、子供が良いと感じる作品が異なった事例があった。→子供が描きたい絵とは違う。教師が表現させたい方向に今まで意図的にさせていたことはなかったか？（指導しなければならない技法はある。表現は自由。）例示する作品も難しい。 ・褒められるとうれしいから、先生がいいって言ってくれる絵は、いいんだと思ってしまう。（ユカシ先生の一言でも）一言の影響。 ・先の見通しを持たせて、教材計画を立て子供に声掛けをしていくが、時間内に完成できない子や早く終わらせてしまう子の対応。→最後の時間は発表会に設定する。（発表すると発表ポイントが入る。感想を言い合う。コメントがもらえる。見たりコメントを言うのが好きな子が多い。）完成作品主義を推し進めるのでなく、「過程が大事」ということを日々語っていくことも大切。付けたい力が付いたかを重視。 【選択テーマ】地域連携 ・地域を盛り上げるポスター作り...学校が目指す目的（付けたい力）と地域の目指すものが繋がっていないと実現は難しい。 ・持続可能にするには、1 個人が進めても、人が変われば実現は難しくなる。 CSディレクターの存在は大きい。 ・進路先の企業に作品を掲示させてもらえる。小学生は？銀行や小売店？人数の問題。協力的な企業も多い。	Cグループ 【共通テーマ】危機感・不安・困り感 ・成績の付け方 ・温度差（他の先生方と 教科間格差） ・絵の指導方法に悩んでいる ・子どもと対話しながら一緒に答えを見つけている ・でたらめを描いているうちにひらめく。たくさんほめている。 ・成績について ほめても数字に表れず、がっかりしてしまう生徒も。 ・予算 【地域連携】 浅羽中：全学年 520人 美術が好きな生徒が多い 生活と結び付けられない生徒が多い その時間が楽しければよい、という生徒が多い。地域とどうつながるかをもさくしている。時間もないし、どのように地域と結びつく方法を考えている。 高根地区：祭りに作品を出している。保護者の方も見に来てくれる。 富士根北小：宮ガチャのデザインを子供たちが考えている。キャラクターマスコットをデザインしたり。 市の観光課と連携。毎年参加。 焼津？：市と連携してやっているらしい。 【支援をどのようなタイミングでどのような内容で行っているか】 ・材料の条件付けが大切 数を絞るとよい なんでもよい、のが困るゴールが見えるときよい。 ・どんな他の生徒を見に行かせる 向かい合わせでコミュニケーションさせる ・真似＋1 をアドバイスしている。 ・毎時間、前時までの活動の画像を取って全生徒が見られるようにしている ・2時間くらいでアドバイス会をしている。1時間かける。 ・子どもと話をする。対話する。 ・アイディアスケッチの段階で枠を多く作ってやらせと描いていく ・単元に時間をかけている じっくり作業を完成させられるようにしている 達成感を感じる生徒が多い ・完成体験をさせる ・紙工作をする 天井から生える植物 3回やる 3回の変化を見ている という約束 振り返りが大切だと思う。毎回書かせている。5分程度。 毎回確認している。（小学校の先生）技術の獲得。題材の組み方が大切。
Eグループ 【共通テーマ】 ・子供の作品、心の問題が感じられるものなど、掲示していいものかどうか...と感じることがある。抽象的な作品など、これでいいのか、と思うことがある。 ・先生によって、図工にかける思いの差があること。取り組みや評価が変わってしまう。 ・小学校の先生には、苦手意識のある人や、どうしていい分からず困っている人がいる。 ・小→中 図工に対する苦手意識を持たずに上がってきてほしい。 ・中学校の支援級の美術をやっている。中学の内容は厳しいことがあるが、造形遊びを取り入れるのもよいかもしれない。 ・うまく表現しなくてもいいような題材を与える。→その子らしさがあわせる 題材 ・いろんな表れの良さを認めたい ...それは指導なのか？ どう評価するのか。 【選択テーマ】 ・地域への公開→見た人からの肯定的な声掛け→肯定感 ・地域のイベントで造形遊びのワークショップを開きたい。余力がないとできない。 ・沼津千本浜海岸の流木を活用。見立てからの作品作り。→地域のお祭りで展示。地域の人に知ってもらうことができる。他学年にも、流木を活用する活動が広がった（地域の材を生かす）。		